ポーランド空手道事始め

浄土寺住職　霜田千代麿

ポーランド伝統空手道連盟
ホームページ

伝統武道に対する関心
は非常に高い。

ポーランド伝統空手道連盟、理事長ボーデック・クェチンスキー氏より冊子が送られてきた。開いてみると、僕がポーランドに留学し、空手道をポーランドに伝えてから、丁度40年いう事で40周年記念の薄いアルバムであった。

東ヨーロッパの国にポーランド人民共和国がある。札幌冬季オリンピックの年 90 メートル級ジャンプでポーランドのフォルトナ選手が 111 メートルを飛んで優勝した。奇しき因縁の 1972 年に僕はポーランドへ留学した。グロトフスキーの実験劇場で演劇の勉強をするためであった。

当初のポーランドは「社会主義人民共和国」であった。党の第一書記長はゴムウカからゲエレックに変わっていた。ウッジ市にある、ウッジ大学付属の外国人のためのポーランド語学校で一年間、ポーランド語の勉強をすることが義務付けられていた。

学校は全寮制であった。ベトナム、モンゴル、北朝鮮、アメリカ、イギリス、フィンランド、アラブの国々、キューバ、日本の同期生三人と多種多様な人種が入り混じっていた。

朝 8 時から夕方 5 時までポーランド語はもちろん、「歴史」、「地理」、「文学」等全てポーランド人の先生がポーランド語でまくしたてた。ポーランドの英雄、キューリー夫人、コペルニクス、ショパン等々の伝記まで暗記させられた。おかげで今でもポーランド語の会話にはさほど不自由はしない。有り難い事である。

しかし、日本で大学を終えた若い僕にはストレスが溜まったのも事実である。

或る日、ウッジ市の中心街ピョトルコフスカ大通りへ出る電車の中で「今、何時ですか？」と日本語でポーランド人の一人の学生が話しかけてきた。アンジェー・ユシケェヴィッチであった。

それが縁で、毎夜 8 時から、ときには午前零時過ぎまで小学校の体育館で空手道の練習指導が始まった。なにせ、ストレスでエネルギーと性欲だけは余りかえっていた。その後3年位の間は、最も激しい練習をしたように思う。

3、4 日の休みがあると、シチェチン市工科大学、ヴェロワッフ市、グダンスク市工科大学、ワルシャワ工科大学とポーランド国内を飛行機で飛び回って、空手道の普及指導に務めた。

その一番最初に教えた一人がボーデック・クウェチンスキーであった。当時中学生か高校生だったように思う。その後、彼は国立ウッジ陸軍医科大学を卒業した。現在は国際伝統空手道連盟全ヨーロッパ理事長。国際伝統空手道連盟の本部はアメリカ合衆国ロサンゼルス市に在る。主席師範は拓殖大学 OB の西山英峻先生（故人）である。

自分は現在も 2 年に一度ポーランドで行われる、国際伝統空手道連盟の世界選手権大会は、必ずポーランド空手連盟の「初代師範」として招待を受ける。ポーランドの空手人口は 6 万人いるといわれている。人生は本当に不思議なものだと思う。自分のストレス発散で指導した空手道が縁となって、大いなる子孫を次々と生んで行く現実を見た時、本当に大学で空手の練習をやってきてよかったと思う。

アルバムの見開きに”Our Story”と書かれた写真があった。そこに、40 年前の自分がボーデックと演武していた。まさに真夏の“お化け”に会った気がした。

（しもだ・ちよまろ）副会長

「プレス空知」（2013 年 7 月 31 日掲載）
許可を得て転載